

世帯と人口	
(昭和63年1月1日)	
世帯	31,152 (-10)
人口	98,817人 (+22)
男	50,788人
女	48,029人

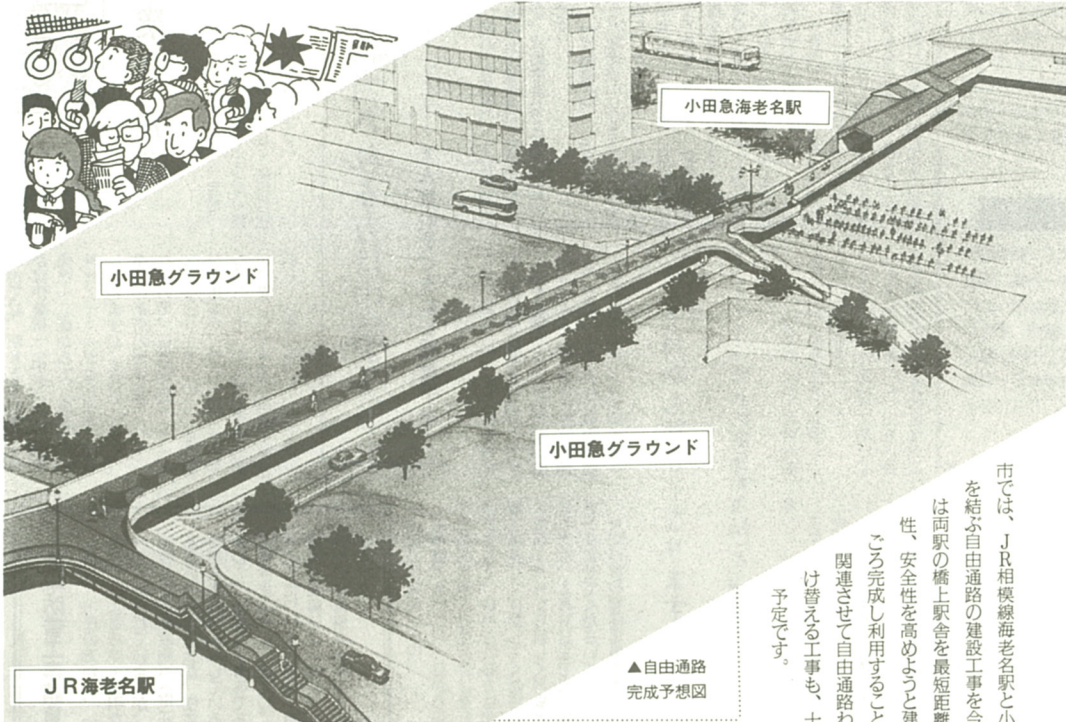
広報 えびな

編集・発行
海老名市役所秘書広報課

〒243-04
神奈川県海老名市国分155
☎ (0462) 31・2111



乗り換えが楽に



二つの海老名駅にやがて自由通路が完成(白線部)

自由通路は今年八月完成し利用できる予定ですが、同通路の建設に伴い、通路わきの市道を約八分ほど北側に移動させ、通路の真下に七号道路(車道幅五メートル、歩道幅一メートル)を新設します。これらの工事は年内には完了する予定です。

JR相模線海老名駅は去年三月、首都圏内最後の国鉄駅として開業しました。同駅は小田急線・相模線海老名駅の西口からの距離が約百七十メートルであることから利用客も多く、現在は一日約六千八百人が利用、今後も増加する傾向にあります。

今月から 工事開始

道路に下りたあと階段を上り下りしなければならず、駅相互の一体感が欠けています。そのため、市では小田急線、JRなどの関係機関と協議を重

ね、両海老名駅を橋上型の自由通路で連結することを決定、今月から工事を開始します。この自由通路はJR相模線海老名駅西口通路約百六十五メートルを直結するもので、高さは両駅の橋上駅舎改札口と同じ六メートル、幅四メートル、通路は色鮮やかなタイルで仕上げ、街路灯六基を設置します。総工費は約三億九千万円です。

市では、JR相模線海老名駅と小田急線・相模線海老名駅を結ぶ自由通路の建設工事を今月から始めます。この通路は両駅の橋上駅舎を最短距離でつなぎ、駅利用者への利便性、安全性を高めようと建設されるもので、今年八月ごろ完成し利用することができると見られます。また、これに関連させて自由通路わきの市道を同通路真下に付け替える工事も、十二月完了を目途に順次行う予定です。

「通勤時はたとえ一分間でも貴重ですから、どうしても早足になり、JR海老名駅や小田急線ホームの上り下りは、運動不足の体になった気がします。それに両駅舎の間にある市道では、走行車両を確認せずに車道を横断する通勤者も多いように思います。」

海老名駅に自由通路

JR・小田急両駅間に自由通路に建設



「通勤時はたとえ一分間でも貴重ですから、どうしても早足になり、JR海老名駅や小田急線ホームの上り下りは、運動不足の体になった気がします。それに両駅舎の間にある市道では、走行車両を確認せずに車道を横断する通勤者も多いように思います。」

完成待ち遠しい

大沢京之さん(門沢橋)

大沢さんにとって自由通路の建設は、安全にしかも疲れずに乗り換えができるので大助かり、とのこと。 「通路が完成すればJR海老名駅の利用者も増えるのでは。今後は、駅周辺は開発が進み建物も多くなるとは思うが、将来はこの通路にも、ぜひ雨よけの屋根をつけてほしいですね」と、話している。

フォトピックス

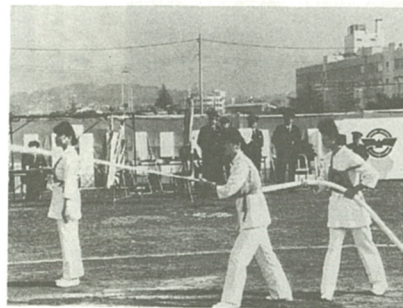


だんごを焼いて今年も息災

女子消防隊も登場

新春祝って消防出初式

新春恒例の「消防出初式」が一月十四日、小田急グラウンドで開かれ、市消防署や市内全分団、事業所で編成された自衛消防隊、今里自治会の自主防災組織が参加し、六十三年の消防功労者表彰や消防演技が披露され



厚生病院の看護婦さんも女子消防隊で活躍

かわいい使者

世界平和の人形使節展

世界四十カ国から寄せられた人形を集めて「世界平和の人形使節展」が、一月十二日から十七日まで二チイ海老名店文化ホールで開かれた。主催は「世界平和の人形使節展実行委員会」(園田天光委員長)。



「みこと」人形にお父さんも感心...

千八百人が成人

式で夢と責任を語る

成人の門出を祝う成人式が一月十五日、市文化会館で行われ、千二百人の新成人が参加し会場は超満員であった。アマチュアバンドのアトラクションのあと式典が行われ、中峰岳志さんら四人が、将来への夢の実現に努力した道のりや成人としての責任などを、二十歳になった抱負をユーモアをまじえて話した。



成人への旅立ちは、明るい希望に満ちていた

風邪も逃げた

どんと焼きで無病息災

一月十四日、市内各地で無病息災を祈る「どんと焼き」が行われ、しめ縄かさりや松かさり

みなさんの声

投書は 秘書広報課へ



鉄道博物館を

海老名には小田急電鉄の広大な車両基地があります。この施設を市民のために活用させてもらったらどうでしょう。

その一案として鉄道博物館のようなものが車両基地内にはあればいいと思います。東急電鉄は既に高津駅で実施しています。関係機関に働きかけ、市でも検討してみてはどうでしょうか。

国分 吉田昭彦 学生

「この鉄道博物館のような意見など「みなさんの声」をご利用ください。」

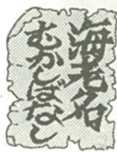
フォトピックス

フォトピックス

フォトピックス

フォトピックス

大正のはじめから同十年ごろまでの短期間であったが、青年たちの間に素人相撲が流行した。その要因はレクリエーションの要素と青春のエネルギーの発散にあったのであろう。



第17話

中新田の相撲

格であった。行司は杉崎氏も助めたが「元氣」というシゴ名の西山倉吉氏が、呼び出し兼行司を主として行った。西山氏は袖無を着て「天下泰平」と書かれ、房までついている手製の小判型軍配団扇をさしていた。

大相撲をしはしは見学したり、諏訪神社で行われた夜宮の奉納相撲には「緑川」という十両力士を招くことができた。

大正七年に西山氏は飯島米吉氏と柏ヶ谷の大家まで指導に行った。ここでは加藤千代太郎氏が大関格で、同地の土俵開きには本場の十両も来た。

その笠の上部に、右を向いた彫刻の力エールが泰然と座している。これは力士が仕切りをする構えに因ったものという。この香炉を奉納したのが中新田

日に行われている関分の忠魂碑の同地にも招かれ、仁王門の前で祭りの青年たちや各地の天狗連と奉納相撲をした。このほかにも磯部(相模原市)の河原開き、伊勢原の大神宮祭、及川・千津・岡田(厚木市)などの興行にも中新田から大受け参加して、その行事を盛り上げたのであった。



海源寺境内の浄行菩薩像の前の香炉

の相撲のピークだったのである。 「相撲は中新田」ということが知られていて、各地から手紙や口頭で招待がきた。四月十

昔話

昔話

昔話

大正のはじめから同十年ごろまでの短期間であったが、青年たちの間に素人相撲が流行した。その要因はレクリエーションの要素と青春のエネルギーの発散にあったのであろう。

大相撲をしはしは見学したり、諏訪神社で行われた夜宮の奉納相撲には「緑川」という十両力士を招くことができた。

大正七年に西山氏は飯島米吉氏と柏ヶ谷の大家まで指導に行った。ここでは加藤千代太郎氏が大関格で、同地の土俵開きには本場の十両も来た。

その笠の上部に、右を向いた彫刻の力エールが泰然と座している。これは力士が仕切りをする構えに因ったものという。この香炉を奉納したのが中新田

日に行われている関分の忠魂碑の同地にも招かれ、仁王門の前で祭りの青年たちや各地の天狗連と奉納相撲をした。このほかにも磯部(相模原市)の河原開き、伊勢原の大神宮祭、及川・千津・岡田(厚木市)などの興行にも中新田から大受け参加して、その行事を盛り上げたのであった。

海老名むかしむかし
 ☎33-3838
 電話で海老名の昔ばなしが聞けます。
 1月26日～2月8日 第3話 あの時への竹づえ
 2月9日～2月22日 第4話 門石